

## 【2015年5月 相談レポート】～5月は「中高年のひきこもり」について～

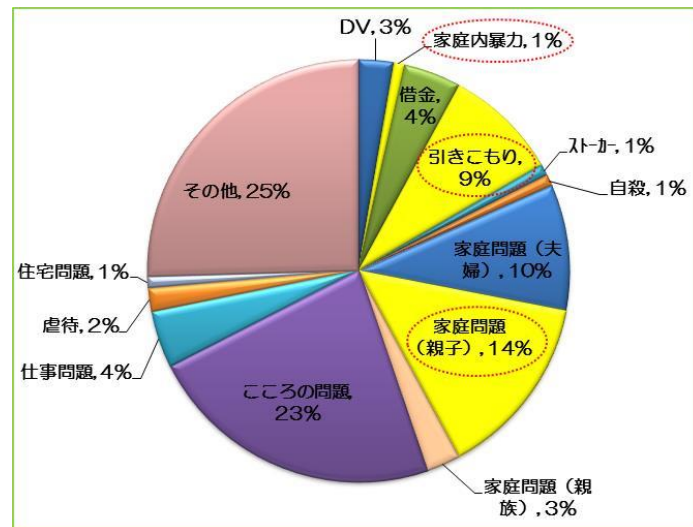


図1. 5月の相談案件

今月は、前回までに引き続き「ひきこもり」に焦点を当てたいと思います。3月、4月と連続で、「ひきこもりの高齢化」、「家庭内暴力・ひきこもり」について取り上げてきましたが、「中高年のひきこもり」についてのご相談は今年の上半期に特にご相談が多いため、引き続き取り上げたいと思います。

あまり信じられないかもしれませんが、「自立してほしい」と言いながらも、子どもを金銭的に依存させてしまう…、親の精神的な不安やこころの拠りどころとして、子どもの自立を引き延ばしてしまう…という親御さんがいます。たとえば、親御さんが「早く自立してほしい」「いつになったら出世するんだ」と言いながら、いざお子さんが家を出ようとする、急に体調が悪化したり、うつになって寝込んでしまうということも少なくありません。子どもの側からすると、無意識で親御さんの不安を汲み取り、さらには親御さんへの心配もあって、健全に巣立つことができない状況となります。また、物質的・経済的な面で恩恵を受け続けられるため、親元を離れるのは一大決心で、人によっては身を切るような勇気が必要になります。しかし、子ども側にそれぞれ健全な自立心が育っていて、ある意味「(親と居続けることが)息が詰まる」「早く家から出て自分の人生を生きたい」「このままで人生を終わらせたくない」などという強い意志があれば、自立はそう難しいことではありません。

さて、ひきこもりは「子どもの怠け癖」のように捉えられがちですが、人間は一人で一方的に依存しつづけるということは極めて難しいものです。要するに、問題のある人の周りには、必ずその問題を支え、さらに問題を長引かせて助長させてしまう人の存在があって初めて「依存」することができるのです。お子さんが身勝手に自己中心的に育っていたとしたら、その振る舞いをして許される環境があったからかもしれません。人間は、必ず環境に適應する、順応していくようにできているものです。子も親も、お互いの「個」を尊重し、バウンダリーの線引きができれば、病的な「依存・共依存関係」から抜け出すことができます。これにはご自身の覚悟と行動力、そしてケースによっては専門家などのサポートを得ながら進めていくと心強いかもしれません。

～悩みごとや困りごとがありましたら公益社団法人日本駆け込み寺へ～

ご相談は、以下の電話番号からどうぞ

◆新宿歌舞伎町駆け込み寺:03-5291-5720 ◆仙台国分町駆け込み寺:022-395-7740